



桜の花びらが風に舞う季節に入りました。湖岸に生えるヤナギの緑が目まぶしく見えます。今回はあまり歩かないでじっくり見るスタイルを一時休み、左回りに一周しながらの観察です。植物の芽吹きに合わせて様々な生きものが顔を出し、ツバメが滑るように飛んでいます。冬鳥はほとんどその姿を見なくなりました。



イロハモミジ

赤い小さな花を咲かせています。雄花と両生花が混じりません。



キリギリスの幼虫

道沿いに咲くニホンタンポポにいました。梅雨の終わる頃に、チョン・ギースと鳴き始めます。



ヤマトカギバ

翼長が 30 ミリくらいの蛾です。前羽の先端に特徴があり、2本の褐色の線が目立ちます。



ホソバトビケラ

蛾のような蚊のような体型です。用チュは水生昆。虫網に入りました。



クサイチゴ

背丈があまり高くないのでこう呼ばれています。半日陰になる林縁に生息し、白く大きな花が目立ちます。6月頃、赤い実が目立つようになります。



モモブトカミキリモドキ(左:雄、右:雌)

キリギリスの幼虫と同じくタンポポの花でよく見かけます。雄は後ろ足のもも(腿節)が太いです。タンポポの受粉を助けています。



キタキチョウ

複眼も薄い黄緑色に見えます。長い触角にはいくつもの節が見られます。



ヤママユ幼虫

体長 8 ミリほどの1齢幼虫です。近くの枝に丸い卵があり、穴が開いているのを見つけました。2ヶ月後くらいに薄緑色の繭を作ります。



コミミズク羽化殻 ミミズクというとフクロウの仲間を想像しますが、こちらはヨコバイの仲間です。頭部(左側)がへらのように広がるのが特徴です。コナラの若葉に残っていました。



**タイワンタケ
クマバチ雄**

在来のクマバチは胸が黄色いので

キムネクマバチと呼ばれるようになりました。この蜂は輸入された竹材ともに入ってきた外来種です。雄の顔にこんなはっきりした模様があるのを初めてお目にかかりました。



バラルリツツハムシ

瑠璃色で寸胴(ずんどう)のような形のハムシです。瑠璃色のハムシは多いです。



**シロバナ
カラスノエ
ンドウ**

カラスノエンドウの花は紅紫色の

ですが、白花が見つかりました。どうなっていくのかな、と思います。この仲間の豆のへそは長く、ソラマメの仲間に入るようです。



ナラメリンゴフシ 直径 2 ㍍

ほどの虫こぶ(虫えい)です。タマバチが冬芽にいくつも産卵し、6月頃羽化するようです。

植物 (花:ニホンタンポポ、ミドリハコベ、コハコベ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ヤエムグラ、ムラサキサギゴケ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、シロバナカラスノエンドウ、スイバ雌雄、タネツケバナ、ミチタネツケバナ、オオイヌノフグリ、ヒメスミレ、ニオイタチツボスミレ、ツボスミレ、アリアケスミレ、ヒメハギ、シャガ、ヒサカキ匂い減る、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラ、コナラ、アベマキ、ガマズミ、ミヤマガマズミ、コバノミツバツツジ、ヒラドツツジ咲き始める、イスノキ花蕾、ヤマモモ雌花、イロハモミジ、ネズ雄花、ミツバアケビ、アケビ、サルトリイバラ)、芽吹き(コナラ、アベマキ、リウブ、ゴンズイ、タカノツメ、ヤマハゼ、アラカシ、アカマツ、クロマツ、ヤナギ類、ネムノキ)、チガヤ、クズ、**昆虫** モンシロチョウ、(ツマキチョウ)、キタキチョウ、ツバメシジミ、ベニシジミ、アサギマダラ幼虫、ヤマトカギバ、オオマエキトビエダシャク、ヤママユ幼虫と卵、クワゴマダラヒトリ幼虫、不明ガ幼虫(ソメイヨシノ)、ミノムシ(チャミノガ)、ホソヘリカメムシ、コミミズク脱皮殻、マルカメムシ、シロオビアワフキ幼虫、キジラミ類、ナナホシテントウ、ルリイクビチョッキリ、ヤナギルリハムシ、ハンノキハムシ、バラルリツツハムシ、キリギリス幼虫、ツチイナゴ、タイワンタケクマバチ雄、コハナバチの一種、マガリケムシヒキ雌、アシプトハナアブ、モモブトカミキリモドキ、ホソバトビケラ、**クモ** アシナガグモ、クサグモ幼体、不明クモの出囊(赤い幼体)、ウヅキコモリグモ雌・卵のう、**鳥・その他** ウグイス、ヒヨドリ、シジュウカラ、キジバト、メジロ、コゲラ、シロハラ声、ハシボソガラス、ツバメ、ダイサギ、カワウ、カルガモ、オオバン、カイツブリ、(羊歯)ウラジロ芽吹き(虫こぶ)ナラメリンゴフシ、ナラハタイコタマフシ、

次回は5月14日(木)、午前9時30分～、水資源機構P前集合、参加費100円